

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 遊楽		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月3日 ～ 令和7年 3月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年 3月3日 ～ 令和7年 3月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な説明と個々の特性に応じた支援の提供。	・連絡ノートを活用し、日々の様子等について丁寧な説明を心掛けている。 ・毎月通信を欠かさずに発行している。 ・専門的な支援を提供するために外部講師を招聘し、定期的にケース検討を実施。 ・バギーユーザーや医療的ケア児等、個々のニーズに応じた受け入れを行っている。	・ICTの活用を含め、保護者の方も使いやすいシステムの構築を検討していきたい。 ・外部講師を招聘したケース検討は定例化し、継続する。 ・個々の状況に応じ、地域の実情に応じた受け入れを今後も行う。
2	家族同士の交流やきょうだいの交流ができる機会がある。	・家族やきょうだいも参加できるイベントを年に4～5回開催している。 ・制度説明や情報交換を含めた茶話会の実施。 ・保護者向け研修会の開催。	・家族やきょうだいも参加できるイベントは内容を検討しながら、継続していく。 ・茶話会は年に複数回開催し、多くの方が参加できるように工夫する。 ・「保護者会」の設立を含め、保護者の方が主体的に活動できる機会について検討を行う。
3	職員がやさしく笑顔で関わっている。	・日々のミーティングや会議の中で、関わり方や悩み、困り事等の確認を行い、子どもたちと前向きに関われるようチームで支援を行っている。 ・お互いの強みを活かせるよう役割分担を行いながら、支援や日々の業務にあたっている。 ・子どもたちの状況に応じて、楽しみのある支援の提供をするために、プログラムを工夫している。	・日々のコミュニケーションを大切に、職員の強みを生かした支援ができるよう連携を強化する。 ・個々の状況に応じて余裕も持って楽しく関わるように、専門性を高める。 ・子どもたちの課題にだけ着目せず、いいところに常に目を向け、チームで共有を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応、説明、周知	・契約時には説明を行うが、契約時以外は説明や周知の機会がほぼ無い。 ・事故対応、災害対応等の緊急時の対応マニュアルは整っており、訓練も行っているが、マニュアルは紙ベースで量も多いため保護者の方へ情報が伝わりにくい状況となっている。	・ICT等の活用を含め、マニュアル等の周知の方法を工夫していく。
2	地域との関わり	・土曜日や長期休暇時には地域のイベントへの参加や公共施設、公園、店舗の利用等、地域との交流が図れているが、平日の支援では地域の場の活用や子ども達と交流する機会が時間が少ないこともあり、提供できていない。 ・放課後に事業所に来ることで気持ちを切り替えたり、リラクセスや安心する子どもたちも多い中で、地域の子どもたちと関わる機会を提供することで居心地のいい時間がなくなってしまうのではと思うところもあり、提供することに躊躇してしまう。	・平日においても、可能な限り（下校時間が早い時等）公共施設を利用し、地域の場の活用や地域の方との交流を増やしていく。 ・地域のボランティア団体などの受け入れを行っていく。